2011年8月 106号

ちばけん公民館 スタッフニュース

わがまちじまん!! 館山市『第30回南総里見まつり』

館山市は、房総半島の南端に位置しており、波静かな館山湾と黒潮おどる太平洋に面し、風光明媚な31.5kmの変化に富んだ海岸線を有しています。館山湾に沿って市街地が形成され内陸部には緑豊かな田園や照葉樹林の丘陵が広がり、黒潮の影響を受けた温暖な気候と人情豊かな風土に恵まれた地域です。

早春の花畑やいちご狩り、夏は海水浴や各地区で開催されるお祭りなど、年間を通じてたくさんの観光客が訪れる当地域。今の時期は、夏の観光シーズン真っ盛りで、花火大会や海水浴、避暑に訪れるたくさんの観光客で賑わっています。

年間を通して様々なイベントも開催されていますが、その中でも毎年10月に開催しているイベントが「南総里見まつり」。江戸時代の伝奇小説で、曲亭（滝沢）馬琴作「南総里見八犬伝」のモデルとなった房総里見氏にちなんで開催しているお祭りです。今年は30回目を迎えることから10月1日㈯・2日㈰の2日間に渡り開催され、1日には館山駅周辺に市内一円から過去最大総勢34基の神輿、山車などの集結、公民館教室をきっかけに始まった手作り甲冑隊の武者行列など、その迫力は見応え充分です。2日には城山公園を会場にB級グルメまつりも開催されますので、勇壮なお祭りを見に、また、おいしい食事を楽しみに、館山市に是非、お越しください。市民一堂、皆さんのお越しをお待ちしています。

千葉県公民館連絡協議会

県公連 NEWS

平成23年度県公連総会開催

6月2日、千葉県総合教育センターに於いて、県内各地から115名の公民館職員、関係者が出席し、平成23年度千葉県公民館連絡協議会総会が開催されました。

まず、功績表彰が行われ、公民館運営審議会委員（33名）・県公連役員（1名）に感謝状が、永年勤続職員（13名）に表彰状が贈呈されました。

議事においては、平成22年度の事業報告・歳入歳出決算報告及び会計監査報告の他、第62回千葉県公民館研究大会（平成22年11月18日／君津市民文化ホール他／参加者405名）や、各部会・専門委員会の活動報告がありました。

続いて、平成23年度事業計画（案）・歳入歳出予算（案）についての審議があり、3月11日に発生した東日本大震災を受け、地域のつながりや活動の拠点となる公民館の意義を再確認しつつ、第63回千葉県公民館研究大会（平成23年11月17日／千葉県南総文化ホール他）への取り組みや、各部会・専門委員会の事業計画（案）についての説明、また、役員の改選についての提案がなされ、全て原案通り可決されました。しかしながら、財政の厳しさ等により、公民館を巡る状況は年々厳しさを増していることも事実であり、県公連と単位公連の関係の充実や体制強化へ向けた課題について、引き続き検討していく必要があることが確認された総会となりました。

総会の後には、3月に発生した東日本大震災の被災地への取材を行った、全国公民館連合会の村上英己さんによる「被災地における公民館の現状と役割」～東日本大震災の現場からのリポート～と題した講演会が開かれました。

村上さんは、全国公民館連合会の機関紙である「月刊公民館」で、震災の現状を報告するために、震災から約1ヶ月が経過した4月中旬に現地に取材に行かれたそうで、現地で撮影された数多くの写真を使いながら、各所で避難所となっている公民館の現状、また、今後の課題等について、避難所の比較をしながら、わかりやすく説明してくださいました。中でも、気仙沼市の避難所の一つである松岩公民館では、避難所を運営していくために必要となる様々な役割を震災後すぐに設け、住民が主体となって避難所が運営されていたそうで、他の避難所と比較して非常に優れていたそうです。このような対応が出来たのも、日常的に多くの住民が公民館を利用し、お正月になれば地域の人たちと炊き出しを行うなど、震災以前から地域のつながりが深かったためであり、このような日常的な取り組みが、いざというときに、住民主体によるきめ細かい対応につながったのではないかとのことでした。

公民館はよく、地域の拠点であり、人や地域とのつながりを作る場であると言われますが、今回の事例をうかがい、改めて、その意味を実感された方も多かったことでしょう。

今回初めての試みとして、総会で講演会を開催いたしましたが、今後、公民館を運営していく上で何らかのヒントを得られた、そんな意味のある講演会となったことと思います。

新県公連会長よりあいさつ

柏市中央公民館の足立と申します。

３月の大震災で千葉県も被災県となり、被害を受けられた公民館も多数出ましたことにつきまして、心よりお見舞い申し上げます。

本市におきましても、福島第一原発の事故によります避難者を受入れ、約１ヶ月半にわたり、避難所対応のため、通常の公民館業務ができない状況となりましたが、このような災害時におけます公民館の機能の重要性を感じざるを得ない貴重な経験でした。

さて、今年度、千葉県公民館連絡協議会の会長となり、改めて、協議会につきまして、考える機会を得ました。恥ずかしいことに、常に傍観者としての視点でしか接していなかったことに気づき、今までの役員の皆様がいかに大変な職責を担っていたのかを目の当たりにし、身の引き締まる想いがいたしました。

ただ、今回の役員の選定につきまして、新年度に入りましても選出ができない事態が続くなど、県公連として将来に不安を残す状況といえます。

現在の公民館館長の置かれている立場は、行政の抱える問題と公民館活動の狭間でもがき、公民館の未来に対し積極的な意見を持つことができずに、腰が引けているとしか言い様がない状況です。このことが、県公連の組織の弱体化を招いているのではないでしょうか。

今後、組織の充実を図るには、思い切った改革が求められており、その担い手は公民館を支えている中堅・若手の職員ではないかと考えております。将来性のある県公連づくりのため、多くの公民館職員が、職に係わりなく積極的に参加できるよう環境づくりが急務と考えています。

それぞれの公民館の抱えている問題は、いまさら言うまでもなく大変な状況と推察いたします。個々の公民館が弱体化しているなか、県公連の果たす役割が大きくなり、重要性が増してくるでしょう。微力ではありますが、少しでもお役に立てるよう務めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

足立　知哉（柏市中央公民館）

第63回千葉県公民館研究大会

希望をつむぐ！公民館～心ふれあう故郷（ふるさと）づくり～

家庭・地域の教育力の低下、地域コミュニティの希薄化、さらに市町村合併、指定管理者制度の導入、行財政改革の中で施設の統廃合や予算、人員配置の見直しなど、公民館を取り巻く環境は大きく変化し、厳しい環境にあります。

こうした中、社会教育法が制定されてから 60 年を経た今日でも、地域の子どもたちから高齢者までが気軽に集い・ふれあい・学ぶことのできる身近な生涯学習の施設として、公民館への期待はますます強まっています。

そこで、県内の公民館関係者が一堂に会し、日ごろの実践をもとに研究協議を行い、学びあう中で、これからの公民館が、まちづくりの拠点として地域に愛され、親しみを持ってもらえるよう「たのしい、ためになる、たよりになる」そんな希望をつむいでいくような公民館のあり方を考える機会として、公民館研究大会を開催します。

【期日】平成 23 年 11 月 17 日（木）
【会場】千葉県南総文化ホール・館山市コミュニティセンター（館山市北条 740-1）
【主催】千葉県公民館連絡協議会
【主管】第 63 回千葉県公民館研究大会実行委員会　安房地方公民館連絡協議会

県公連役員

【会　　長】	足立　知哉	柏市中央公民館
【副　会　長】	渡邉　　仁	鴨川市中央公民館
	高地　和生	いすみ市岬公民館
	熱海　寿雄	浦安市中央公民館

各部会長・専門委員長・監事

【館長部会長】	熱海　寿雄	浦安市中央公民館
【主事部会長】	鈴木　和代	木更津市立西清川公民館
【研究委員長】	會澤　直也	君津市八重原公民館
【広報委員長】	木村　　忍	富津市民会館
【研修委員長】	林　　幸雄	匝瑳市立八日市場公民館
【監　　事】	市川　信行	印西市中央公民館
	堀越　乾一	香取市中央公民館
	長谷川光政	芝山町中央公民館

県公連事務局

【事務局長】	高梨　晶子	浦安市日の出公民館
【次　　長】	中村　亮彦	君津市清和公民館

広報委員会を紹介

千　葉　市	井上　光司	千葉市越智公民館
葛　　南	坂田　実聖	船橋市東部公民館
東　　葛	畠山　幸男	松戸市矢切公民館
印　　旛	伊藤　昌枝	白井市学習等供用施設
香取・海匝	石橋　正一	銚子市市民センター
山　　武	千田　蘭子	九十九里町立中央公民館
長　　生	峰島　伸吉	一宮町中央公民館
夷　　隅	中村　壮一	勝浦市公民館
安　　房	田中　泰夫	館山市中央公民館
君津・市原	木村　　忍	富津市民会館

県公連行事 REPORT

第126回主事部会研修会開催

7月26日（火）、千葉市新宿公民館にて、第126回主事部会研修会が「震災における公民館及び職員の役割」をテーマに実施されました。前半は池上美喜子先生をお招きして「避難所の実際について」の講演をしていただき、後半は被災地職員談話と参加者の震災の体験などをグループに分かれて話し合いました。

池上先生は兵庫県神戸市出身で、（公益財団法人）東京YWCA運営委員長、（公益財団法人）東京連合防火協会評議員をはじめ様々な防災関係の委員を務めており、千葉県庁にも委員として足を運ばれております。

講義の内容ははじめに「災害は起きてからでないと誰が真のリーダーになるかわからない。」とおっしゃり、最初避難者は地震のショックで思考停止に陥り、皆「お殿様かお姫様」という状態になっていますが、避難してきた人たちに手伝いのお願いができる人がリーダーとなって避難所の運営が円滑になっていくとのことです。なかには、校庭キャンプの学習をした中学生が率先してリーダーとなり避難所生活が円滑に行われた例もあるそうです。この中で、避難してきた方を「お客様」にしないことが肝心とのことです。

また、「人のつながりは災害時に生きる。」ともおっしゃられ、町内会などで地域がつながりを普段から深めておけば、高齢者などの弱者を地域の人たちが見守り、地域全体で災害時の困難な状況を克服できるようになるそうです。

以上のような事を、被災した人たちの体験をまとめた内閣府の「一日前プロジェクト」の内容を例に講演していただきました。

後半は被災地職員の談話で浦安市当代島公民館の上田由紀さんに体験を話していただきました。

当代島公民館とその周辺は震災の直接の被害からは免れたのですが、余震の不安から家にいられない人やディズニーランドへ遊びにきて帰れなくなった東北の人たちが避難してきており、避難所の開設期間は3月11日から3月23日までの13日間でのべ271人の避難者を受け入れたそうです。

近隣の断水している地域から水をもらいに来る人が多いので、避難者から風呂に入りたいとの要望があったが、飲み水優先にしたとのことです。また、東北の人たちを早く無事に帰してあげたいと思い、インターネットで交通手段の情報収集に努力したそうです。

震災発生から数日たって、避難者リストを作成したのですが、はじめからリストを作っておけば、行方不明者等の照会対応に役立ったと悔やまれたそうです。

避難所には、情報を求めて来館する人や公民館を普段利用していない人も避難してきており、公民館を心のよりどころにしている人が多いと感じたそうです。

グループごとの話では、帰宅困難者のためや自宅に被害はなかったが津波警報が発令されたので避難してくる人たちのため、停電していたけれども避難所を開設した公民館もあり、様々な公民館の震災の体験を話し合いました。

最後にグループごとに話し合われた中で疑問に思ったことを池上先生に質問する機会が設けられ、「避難訓練でなく避難所訓練を行いたいが、注意点を教えてほしい。」との質問があり、池上先生は形だけの避難所訓練でなく実際に地域住民に宿泊してもらい、避難所運営ができるか確認するのが重要です。また、その際には併せて宿泊者は手ぶらで避難所にこないで、寝泊まりするのに必要なものは自分で持ってくる訓練をしたほうが良いとのことでした。また、「ごみは収集すべきか。」との質問には収集すべきでありしかも初めが肝心で見本を置いておき、分別させるとの回答でした。避難者リストの作り方の質問に対しては、地域町内会などと普段からつながりをもつように努め、地域の人たち主体で作成する方がよいとの回答でした。

短い研修会でしたが、防災の心構えを一から教えていただいた内容でした。

公民館スタッフのつぶやきコーナー

館長

楽しい学びを応援します

勝浦市公民館　館長　元吉　宏行 さん

私はこの４月から勝浦市公民館長として配属となり、５ヶ月が過ぎようとしています。

勝浦市の人口は約２万１千人弱で、公民館は１施設、その他、集会施設が３施設あります。昨年度に老朽化した中央公民館と市民会館が、建替えのため取り壊しとなり、現在は４施設において公民館活動を実施しているところです。

大きなイベントとしては、５月に公民館まつりが、11月には文化祭があり、これらの開催に当たっては、市の文化団体の協力を得て行っています。団体数はわずか25団体ですが、このイベントを目標に普段から各施設を利用して活発なサークル活動を展開、イベントを盛り立てて頂いております。

現在はもう一つの大きな事業であります各種公民館教室が開講されているところで、平成23年度の公民館教室は18講座21教室を開講します。このなかから新しい公民館ユーザーが誕生することを期待しております。すべての教室の受講者数が定員一杯となればよいのですが、中には、定員割れの教室もあり、毎年苦労しているようですが来年度に向けての検討課題です。

さて一方では、財政問題や職員の削減など地方自治体を取り巻く状況はますますきびしくなる状況ですが、中央公民館が新しい施設に生まれ変わることは、本市の公民館事業においては新たな一歩であり、市民・各団体からも完成を待ち望む声が高まっております。

これを機に、再度、公民館の基本を見つめなおし、今、市民のみなさんが公民館へ何を求めているか、その時代のニーズを把握し、多くの市民の方々が気軽に楽しく学び交流できる場となるよう、職員一同取り組んで行きたいと考えております。

―公民館職員としての心構え―

職員

松戸市矢切公民館　畠山 幸男 さん

私は、今年４月に松戸市矢切公民館へ配属となりました畠山（ハタケヤマ） 幸男（ユキオ）と申します。全く違う職場からの異動で戸惑いながら、あっという間に数カ月が経ちました。

最初に思っていた公民館の印象はホールや講座室を住民や市民団体に貸し出すいわゆる貸し館が主な業務だと思っていました。しかし、それは一部分の業務であって、メインの業務は職員一人ひとりが講座を自主企画し、市民のさまざまな学習活動を応援することだったのです。

先日、初めて先輩の講座（事業）を引継いで一人で現場に行った時にある出来事がありました。それは講座が終盤に差し掛かった頃、部屋の外で他の団体客が大声で雑談をしていて講義が聴きにくくなっていました。私が静かにしてもらうよう席を立とうとすると、受講生の男性が先に外へ出て、その人たちに静かにするよう言ってくれたのです。本来であればスタッフである私が言わなければならなかったと恥ずかしく思いました。講座終了後、その方に「先程は言っていただき、すみませんでした。」と言うと、「同じ市民が言った方が言うこと聴いてくれるんだよ。」と笑顔で答えてくださって、助けられました。

これから先、仕事を通じていろいろな出来事に直面していくと思いますが、皆様に喜んでいただける講座を提案しながら、市民の方々と心が触れ合えるよう、心にゆとりを持てる職員になりたいと思っています。

スタッフ伝言板

まちより むらより、

「男の料理入門教室」～男子厨房に入ろう～

成田市中央公民館　☎0476-27-5911

「男の料理入門教室」は、『男子、厨房に入ろう！』というコンセプトのもとに、簡単な家庭料理から本格的な和洋中料理まで、さまざまな料理を作れるようになろうと、全５回で実施された男性向けの講座です。趣味･教養講座に分類される学級講座ですが、あまり料理に親しんでこられなかったであろうシニア世代をメインターゲットとして、料理の楽しさを実際に体験していただくことで「男が料理してもいいんだ！」という発想の転換を促していく、ささやかなジェンダー教育も目的としています。幸い、毎年好評をいただいており､今年で５年目を迎えました。

講座は全５回で、参加者 24 人を４班に分けての共同作業方式で進められました。２回目までは、どこに立っていいのかわからない、段取りなんか考えたことない、参加者同士も初めてなのでコミュニケーションもうまくとれない、という戸惑いが色濃く感じられて、ぎくしゃくとした作業でしたが、３回目以降になるとだんだんと手際が良くなり、チームワークも出てきて、表情にも余裕が感じ取れるまでになり、料理を楽しんでいるのが傍目にも伝わってくる良い雰囲気になりました。

講師は、市内で料理学校も主宰するベテランの先生で、包丁を握ったこともない参加者が大勢いるなか、料理用語の解説から道具の使い方、食材の切り方、火加減の目安などをわかりやすく、時にはユーモアも交えて指導され、参加者も次第に料理独特の世界に馴染んでいった様子でした。

成田市内から参加の 67 歳の男性は、「料理は時々自己流でやっていたが、ここで基本を教えてもらったので、きちんとした料理を作れるようになったと思う。特に、調味料の使い方と食材の切り方は、いままではまったくだめだったと反省した。日常で使える料理を教えてもらって感謝している」と話していました。

歴史探訪講座

富津市民会館　☎0439-67-3112

歴史探訪講座は､「地域の歴史を､文化･自然･人物･史跡などから再発見する」をテーマに平成 19 年度にスタート。

当初の参加者は、市民会館付近の受講者が多く、講師の先生も地元の郷土を研究している方々や生涯学習課職員にお願いし、富津市の歴史の沿革から始まり、移動教室３回を含め年９回の開催となりました。

その後、年を重ねるごとに講義中心から移動教室の回数を増やし、直接見て、触れて、また、講師の説明を受けては当時の状況を感じながら記録写真を撮り、ファイリングする受講生が増えていく状況となり、中にはファイルを基にそのまま講師が務められるほどの方が現れるような状況となっています。

昨年度では、富津市内から一歩踏み出して、木更津市、君津市、袖ケ浦市の近隣市や市原市、鴨川市、鋸南町と巡る計画で、特に小湊鉄道を利用した時には時刻表と時計とのにらめっこで、歩くスピードも皆さん心なしかいつもより早いペースだったように記憶しています。

とにかく史跡を巡るには歩くということで体力勝負、万歩計を携帯している方が「あー、今日も１万歩オーバーした。」とちょっと疲れた表情で話します。

参加者も年々増え、今年は再び市内に戻り、３月に発行された千葉県富津市　内裏塚古墳群　富津市文化財ガイドブックを活用し、グループ分けした地区を受講者が説明するような形式で進み、今後はボランティアとして活躍していただけるような期待がされています。

持ちより公民館だより

わが町ホームステイ「我が家に泊まりにきませんか？」～2泊3日のお泊り体験～

船橋市東部公民館　047-477-7171

個々の家庭と地域のつながりが希薄になっている、と言われてから久しくなってきました。しかし、子どもを家庭だけで育てていくには限界があります。そこで、地域と家庭との新たな結びつきを作っていくために、東部公民館では昨年から「わが町ホームステイ」を実施しています。

「わが町ホームステイ」とは、同性の小学３～６年生が二人組で、学区地域のご家庭に２泊３日のホームステイに行くものです。ホームステイ後には「ありがとうパーティー」を開き、泊めてもらった小学生が公民館で料理を作って、お世話になったホームステイ先の方々や自分たちの家族を招きます。この“他人の家に泊まる”という経験を通して、子どもたちの気づきや成長につなげていくことも目的の一つです。

今までは同じ地域に住んでいながらも見ず知らずだった家庭に子ども達がホームステイするというのは、泊める側のホームステイ先や子どもを泊まりに行かせる保護者に不安や心配が伴います。しかし、「泊まりに来た子どもより、泊める側の自分たちの方が楽しんでしまった」「子どもがひと回りたくましくなってホームステイから帰ってきた」という感想も聞かれたほど、大人側にも喜んでもらえました。また、昨年はホームステイ後も子どもがバレンタインデーにホームステイ先へチョコレートを贈るといった話が聞かれ、家庭同士に確かな繋がりが生まれたことが感じられました。

子どもが掛け橋となり、二つの家庭が繋がり合う。それがやがて地域全体に広がって、地域の子どもを地域のみんなが優しく見守って育てていくような、温かいまちづくりを目指します。

「公民館で合宿体験」九十九里町通学合宿

九十九里町立中央公民館　0475-76-4116

「おはようございます！」子供たちの元気な声が公民館に響きます。

６月の水曜日の早朝、今年で５年目になる『通学合宿』が始まりました。

『通学合宿』は子供たちが家族を離れ異学年との集団生活から社会性を養い、自主性・協調性を養い生活力を高めることを目的としており、町内の三つの小学校４～６年生の児童を対象に毎年行われている。例年抽選になるほどの人気のイベントで、今年は６月８日からと６月29日からの２回42名の参加で行われました。

水曜から土曜日までの４日間、児童たちは５名ずつの班に分かれ公民館で宿泊をしながら学校に通います。初めの夕食・朝食以降は、みんなで考えた献立で買い出し当番が買い出しに出かけている間に残っている班のメンバーが夕食準備を始めます。食事の後は入浴に町内の『サンライズ九十九里』にご協力をいただき全員で町のバスに乗りお風呂に向かいますが、それだけで小さな修学旅行のようです。

金曜日の夜はジュニアリーダースクラブのお兄さんやお姉さんとのレク大会で盛り上がり、最終日である土曜日には親子料理教室と大盛況のうちに幕を閉じました。

「他校の子と仲良くなれて新しい友達も出来ました。」「朝食と夕食を作るのが大変で、お母さんの気持ちがわかりました。」「私は６年生で来年は来られないけどジュニアリーダーに入ってまたこの合宿に来たいと思いました。」等の感想をいただきました。

シリーズ・県内の

元気館

学ぶ意欲応援します。

千葉市生涯学習センター

☎043-207-5811㈹

千葉市生涯学習センターは、千葉市中央図書館との複合施設として平成13年にオープンしました。

ＪＲ千葉駅から徒歩約10分で、「大賀ハス」で有名な千葉公園にも隣接しており、中心市街地に近いながらも閑静な場所に位置しています。

建物は、地上３階、地下１階の４つのゾーンで構成されています。１階の入口を入るとまず目に入るのがアトリウムガーデンと呼ばれる大きな吹き抜けです。市民の憩いの場としてコンサートや各種イベントの会場として活用されています。同じフロアには、生涯学習情報提供のスペースとして設けられた生涯学習広場があります。講座やイベント、資格試験などの情報を取り揃えています。生涯学習相談員もおり、生涯学習に関する質問や相談にお答えしています。

２階には、学習成果の発表の場として活用できるホール（300席）と生涯学習と社会教育に関する専門的な資料が閲覧できる調査・資料室があります。ちば生涯学習ボランティアセンターの窓口もあり、ボランティアの登録とコーディネートを行っています。

３階は主に貸出施設となっており、大型プロジェクターを備えた大研修室や食文化、工芸などを学ぶ研修室、会議室、和室などがあります。

地下１階は、音楽スタジオやパソコン機器とＡＶ機器が備えられた学習室や映像ホール、マルチメディア体験ブースなどがあります。このフロアでは、定期的に「まなびサポーター」と呼ばれる施設ボランティアによるパソコン等の相談会や上映会も行われています。視聴覚ライブラリーの窓口もあり、視聴覚機材・教材の貸出を行っています。

当センターでは、地域学に関する講座や生涯学習指導者向けの研修、市民団体から地域課題に取り組む企画を募る「市民自主企画講座」など多岐にわたるテーマで年間400以上の講座を実施しています。近年は、近隣の大学・研究機関や企業等との連携事業も増えており、千葉市の持つ教育資源を活用した事業の充実を図っています。

今年で開館10周年を迎え、これまでに1,200万人を超える多くの方にご来館いただいています。

千葉市の生涯学習の中核的施設として地域と人をつなぎ、市民の「学びたい」という気持ちに応えられるように、日々、事業及び施設運営を行っています。

あとがき

3月11日に発生した東日本大震災により、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

震災から5ヶ月を迎え、復興への新たなニュースを見るたびに「がんばれ！日本」と声援したくなります。

さて、平成23年度から経験者が少ない新たなメンバーで広報委員が組織され、手探り状態ではありますが何とかスタートを切りました。

不慣れな私たちではありますが、皆様よりご指導をいただくと共に情報の提供をお願いしたいと思っております。今後も皆様への情報提供の一助となるよう努力して参りたいと思います。（木村）

ちばけん公民館スタッフニュース

編　集：千葉県公民館連絡協議会　広報委員

委員長：木村　忍（富津市民会館）

編集者：中村　壮一（勝浦市公民館）

発　行：千葉県公民館連絡協議会

印　刷：株式会社 豊文堂